

双方向通信対応* / AdRCSS 920MHz 1ch 小型軽量受信機
S.BUS2入出力 S.BUS出力 + 従来出力 CH3

(* TM-18 RF モジュールとの組み合わせでは、双方向通信 (テレメトリー) は非対応です。

この度は AdRCSS 920MHz システム対応受信機 R9001SB をお買上げいただきまして誠にありがとうございます。この R9001SB には S.BUS2 システム用の入出力と S.BUS 出力および従来システム用の 3 チャンネル出力が搭載されています。S.BUS2 システム対応機器、S.BUS システム対応機器の使用が可能です。

●この R9001SB は Futaba 製 AdRCSS 920MHz システムの送信機 / RF モジュールに対応します。

※ AdRCSS は Advanced Radio Control System for Sub-GHz band の略。Futaba 920MHz 製品を示す。

使用上の注意

Futaba AdRCSS 920MHz システムは、Futaba 2.4GHz システムや従来のラジコン専用電波 (40MHz 帯 / 72MHz 帯) とは互換性がなく動作しません。

警告

- ❗ 受信機を搭載する際は、スポンジで包むなど防振対策をする。また、水分がかからないようにする。
- 受信機は振動、水分に弱く故障する危険性があります。
- ❌ コネクターをショートさせてはいけません。
- ショートすると破損・発火・焼損します。
- ❌ 受信機を高温下に置かない。
- チューブが変形する可能性があります。
- ❌ チューブを破らない。
- チューブが破れたまま使用するとショートなど故障の原因となります。
- ❗ コネクターを抜き差しする際には、本体をしっかりと持ち、チューブが抜けないようにすること。

アンテナ搭載時の注意

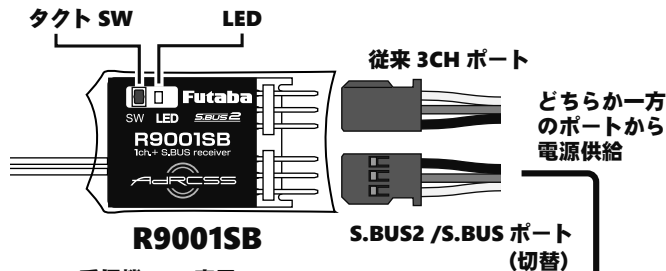
警告

- ❗ 2つのアンテナ(フィルム部)がお互いに90度の位置関係になるように搭載する。
- R9001SB は2つの異なる位置で信号を受信できるように、2つのアンテナが装備されています (ダイバーシティアンテナ)。2つのアンテナを自動的に切替えて常に安定した受信状態を確保しています。
- ❌ アンテナ (フィルム部) をカットしたり折り曲げたりしない。
- 受信距離が短くなり操作不能になります。
- ❌ アンテナを引っ張らない。
- 断線し操作不能になる危険性があります。
- ❗ アンテナはサーボ、モーター、バッテリーおよびそれらの配線から離して搭載する。また、ヘリに搭載する場合には、アンテナをフレームやキャノピー等の導電性のものに触れないようにして搭載する。
- 受信距離が短くなり操作不能になります。

カーボン胴体機に使用時の注意

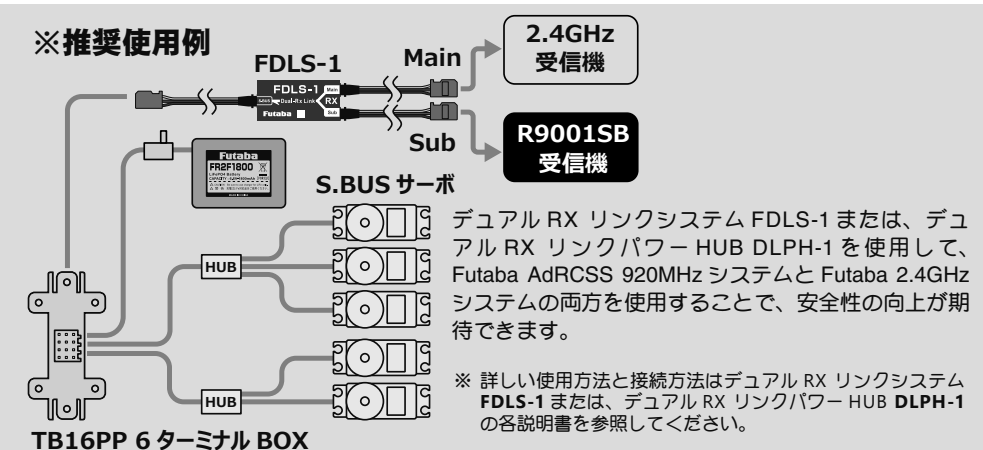
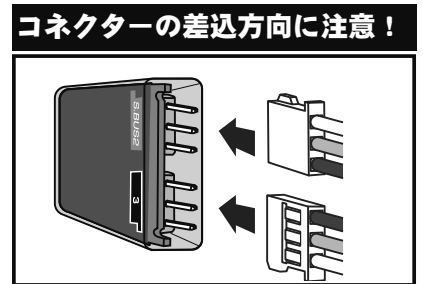
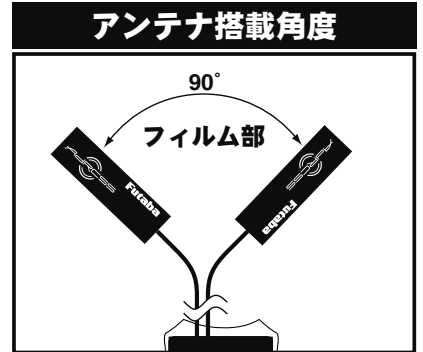
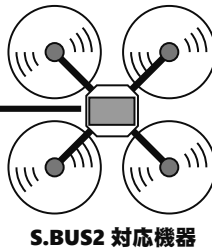
警告

- ❗ アンテナ部分(フィルム部は完全に機体の外側に出すこと。)
- 外側に出したアンテナ部がフライト中に風圧等で機体内部に戻らないよう注意してください。アンテナがカーボン胴体内にあると受信状況が悪化し操作不能になります。



受信機 LED 表示

緑色	赤色	状態
消灯	点灯	無信号時
点灯	消灯	通常動作時
交互点滅		受信機内部の異常 (メモリー等) 電源再投入で回復できない場合は弊社カスタマーサービスへ点検・修理依頼してください。



[R9001SB 受信機仕様]
AdRCSS 920MHz 方式、S.BUS2 入出力 S.BUS 出力 + 従来システム 3CH 出力

- ・アンテナ：ダイバーシティ方式
- ・サイズ/重量：37.5x21.1x5.3mm / 4.6g
- ・定格電圧：4.8 ~ 7.4V (乾電池使用不可)

※ BEC 電源を使用する場合、容量がご使用のサーボ等の条件に合っている必要があります。また、乾電池は使用しないでください。誤動作の原因となります。

※ S.BUS/S.BUS2 出力の最大チャンネル数は送信機により異なります。(未使用の CH はニュートラル出力となります。) また、F/S 時は、F/S 設定 CH は F/S 位置で、それ以外は Hold 状態となります。

リンク操作

AdRCSS 920MHz のリンク方法は、リンクボタンを使用せずにリンクが出来るシステムです。

- 1 送信機と受信機を近づけ、送信機を(※)リンクモードにした状態で、受信機の電源を入れてください。
- 2 受信機の電源を投入してから、約3秒後にリンク待ち状態となります。
- 3 LEDが赤色点灯から緑色点灯に変化すれば、リンク完了です。(リンク待ち状態は約3秒間で終了します。)

※送信機をリンクモードにする方法についてはTM-18 RFモジュールまたは、ご使用の送信機の取扱説明書をご覧ください。

※リンクされた送信機の電源を入れた場合はそのまま通信を開始します。

※リンク操作時に、周囲で他のAdRCSS 920MHzシステムが使用されている場合、それらの送信機の中の1台とリンクしてしまう場合があります。このためリンク操作が完了したら、必ず動作を確認してください。

警告

⊘ リンク操作時は動力用モーターが接続された状態やエンジンがかかった状態では行わない。

■ 不意にモーターが回転したり、エンジンが吹け上がったりと大変危険です。

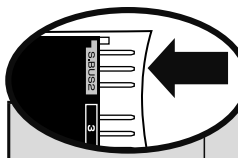
❗ リンク操作が完了したら、一旦受信機の電源を入れ直し、リンクした送信機で操作ができることを確認する。

❗ リンク完了後は必ず送信機から電源を入れる。

❗ 送信機とのペアを組み替えるリンク操作を行う場合は、以前にリンクしていた送信機の電波を出さない。

S.BUS モード

R9001SBはS.BUS2のポートをS.BUS2(モードB)かS.BUS(モードA)に切替えることができます。初期設定はS.BUS(モードA)になっていますので、S.BUS2(モードB)を使用する場合、次の方法で切替えてご使用ください。



S.BUS モード一覧表

	モード A	モード B
S.BUS2	S.BUS	S.BUS2
赤色 LED 点滅回数	1回	2回

初期設定

S.BUS モード切替え方法

- 1 受信機のタクト SW を押しながら受信機電源を ON にします。(送信機は OFF)
 - 2 タクト SW を離します。赤 1 回点灯でモード A に設定。
 - 3 タクト SW を押して(短押し)すぐ離します。赤 2 回点灯でモード B に設定。
 - 4 2, 3 の作業でどちらかの点滅回数を確認して、モードを決定後タクト SW を 2 秒以上長押しします。LED が赤 / 緑の高速点滅になったらボタンを離します。
 - 5 これで切り替えが完了です。切替が完了したら電源を入れ直して下さい。
- ※リンク済みの送信機の電源が ON になっていると切替モードに入りません。

S.BUS システムについて

S.BUS システムでは従来のラジコンシステムとは異なり、操作信号は受信機からサーボやジャイロなどの S.BUS 対応機器へデータ通信により送信されます。

このデータには「チャンネル 3 のサーボが 15 度に、チャンネル 5 のサーボは 30 度に」といったように複数の機器への指示がまとめて含まれており、S.BUS 対応機器はその中から自分に設定されたチャンネルの部分のみを実行します。

このため、サーボ等の複数の S.BUS 対応機器を同じ信号線に接続して使用することができます。

警告

❗ S.BUS 使用時は必ず送信機の電源を ON してから受信機の電源を ON して、操作できることを確認してからご使用ください。

■ S.BUS 通信判定できずに誤動作します。

警告

❗ 受信機電源が ON の状態で S.BUS コネクターを抜き差ししないでください。

■ S.BUS 通信判定できずに誤動作します。

S.BUS システムでのサーボ接続

